

# ぼくの弟

奥村 理功おくむら りこう

ぼくの弟は、とてもかわいくて、とてもいい弟です。でも、ぼくの弟は脳に障害を持っています。そのため、普通の子とはちょっと違います。でも、ぼくは弟がいて成長できたことがあります。

ぼくは、弟が生まれる前に弟ができたなら一緒に遊びたいと思って、弟が生まれるのを楽しみにしていました。弟が生まれた時は、やっとお兄ちゃんになれると、とてもうれしく思いました。弟は見た目は普通の子と変わりませんが、障害があることが分かりました。弟が生まれるまでは、弟のような病気がある事を知りませんでした。弟が障害を持っていないかったら、そういう人がいるという事も知らなかったと思います。きっと知らないまま大人になっていたら、そういう人たちの事を理解できなかつたと思います。見た目が普通なので、弟のことを変な目で見る人がいます。そういう人は弟の病気の事を知らない人だと思えます。ぼくは、そういう大人にはなりたくないです。弟の病気を知って、いろいろな障害を持っている人がいるのだと思うようになりました。また、そういう人の事を気にならなくなりました。

ぼくは、我慢することが苦手でした。でも弟がいることで我慢することが上手になりました。弟はいろいろなものにこだわるところがあるので、ぼくはそのせいで我慢しなければなりません。最近はそのせいで我慢しなくてはならぬ、平

気になりました。そして、我慢することに慣れたら、弟の調子がいい時は、ぼくもうれしくなります。

弟は上手に話すことができず。人に伝える事が上手にできないので泣いたり、さわりだりする時があります。そういう時は、弟が何をしてほしいのか、弟の気持ちを考えてあげる事がたくさんあります。弟は、ぼくたちががんばって伝えようとしてくるので、ぼくはたくさん声をかけてあげたり、優しくしてあげています。弟の気持ちになってあげて、弟と話ができるときはとてもうれしくなります。弟の気持ちを考えてあげているように、人の気持ちも考えてあげられるようになりたいです。

ぼくの弟は、いろいろ大変なところがあるけれど、ぼくたちにいろいろな成長をさせてくれました。ぼくの弟が、普通の子だったらこんな成長できなかったと思います。弟は他の子よりもゆっくりだけで少しずつ成長しています。だから弟が少しでもできることが増えたら、ぼくもうれしくなります。弟は一番の宝物です。これから弟と一緒に楽しく暮らしていきたいです。ぼくは、本心に弟がいてよかつたと思えます。

人を悪い目で見るのではなく、良い目で見ることを、みんなに心がけてほしいです。ぼくも優しい気持ちを持てるようになりたいです。